

第5期 麻生区区民会議 第6回全体会議

- 1 開催日時 平成27年11月13日（金）午後3時00分～午後4時39分閉会
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]
石井（よ）委員、石川委員、植木委員、岡倉委員、小尾委員、
金光委員、白井委員、菅野委員、高倉委員、高橋（克）委員、
林委員、宮本委員、山田委員
(欠席) 石井（郁）委員、上野委員、梶委員、志村委員、高橋（慶）委員、
横田委員、吉垣委員
[参与]
月本参与、石川参与
(欠席) 雨笠参与、老沼参与、勝又参与、木庭参与、花輪参与、山崎参与、
相原参与
[事務局]
井上課長、白石担当係長、麻生、佐藤、榎本
[関係者]
多田区長、向坂副区長、小金井区民サービス部長、
松下地域保健福祉担当課長（代）、猪又保健福祉センター副所長、
綱島道路公園センター所長、岩佐こども支援室長、川本総務課長、
中村地域振興課長、別所生涯学習支援課長、三枝危機管理担当課長
- 4 傍聴者 0人

第6回麻生区区民会議

日 時 平成27年11月13日（金）

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時00分開会

1 開 会

金光委員長 定刻になりましたので、ただいまより第6回麻生区区民会議を開催したいと思います。

もう6回目になりまして、それぞれの部会で審議、検討、さらに調査、あるいは聞き取り、アンケート等を実施して、検討した内容のある程度の確認を行われたと思われれます。これからはそれをベースにして、どういうふう結論づけて、提案を作成していくかという段階になると思います。多分、定例会議以外に勉強会と称してのまとめの段階でいろいろ集まる機会が多くなると思いますけれども、皆様方におかれましては、大変忙しいと思いますが、いい提案ができるような形で、一踏ん張り頑張ってくださいと思いますので、よろしく願い申し上げます。きょうは皆さん、お忙しいところご参集いただきまして、ありがとうございます。

2 議 事

金光委員長 それでは、事務局より本日の資料内容についての確認をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局 それでは、事務局から配付資料の確認をさせていただきます。一番上に、本日の会議の次第がございます。次に、資料1、席次表、資料2といたしまして第5期麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3といたしまして若い世代が住みやすいまちづくり部会の調査審議状況、資料4といたしまして市民活動・地域活動の活性化部会の調査審議状況、資料5-1といたしまして区民会議フォーラムの開催について（案）、資料5-2、区民会議フォーラム参考資料、資料5-3、区民会議フォーラムスケジュール（案）、資料6といたしまして区民会議ニュース3号（案）、最後に資料7、第5期区民会議スケジュールとなっております。また、参考資料として、第5回麻生区区民会議議事録、あと、やまゆりニュースを配らせていただいております。以上でございますけれども、資料に不足等ございましたら、事務局までお申し出ください。

金光委員長 どうもありがとうございました。

(1) 第5期麻生区区民会議調査・審議課題等について

ア 若い世代が住みやすいまちづくり部会の検討経過及び意見交換について

金光委員長 それでは、早速、第5期麻生区区民会議調査・審議課題等についてに入りました。

いと思います。まず初めに、若い世代が住みやすいまちづくり部会の検討経過及び意見交換について、白井部会長から経過についてお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

白井委員 それでは、若い世代が住みやすいまちづくり部会の調査審議状況をご説明いたします。

この間、前回の5回から9月、10月というふうに経過しているのですが、その中で、部会は3回開催しております、その間、子育てフェスタの中でアンケート調査を実施させていただいて、268件という方にご回答をいただいております。それから、麻生区内の大学4大学につきまして、ヒアリング調査を委員の方、別に分かれて訪問して、ヒアリングを実施しております。その結果を踏まえてまた議論をしたところなのですが、そのような話を説明させていただきたいと思います。

まず、お手元の資料3ですが、左の背景については従来から説明をしているような話ですので、少し進めさせていただいて、方向性として、若い世代がこのまちに住んでいただきたいというところをどういうふうな観点でやっていくかということで、ここで議論が始まりまして、若い世代の方がどういった意向を持っているかということを含めて、いずれは調査しようということで、今回、アンケート調査をしているのです。それから、事例として、千葉県の流れ山市。流れ山市の話は何回かしたのですがけれども、この間も市長が出ていらっしゃって、テレビで、流れ山市に若い人が入ってきている、魅力を感じるというようなことを力説されておりました。1つは、前からキャッチフレーズで、都会から一番近い森のあるまちと言ったり、子育てするなら流山とか、いろいろなキャッチフレーズをつけながらやっているようです。そういったことをまたさらに、これはある程度コンサルタント等を含めて取り組んでいるようですので、実態的にここに伺っていても思ったのですけれども、向こうの担当者と話をしているときに、前回もお話をしたかと思うのですが、内容的にはいろいろ答えはいただきました。川崎市も進んでいる部分があるんじゃないですかというような答えもありました。

それから、もう1つ、若い世代が魅力を感じる調査ということで、魅力についても調査しようということで、繰り返しですが、後ほど子育てフェスタの中でのアンケート調査の実施内容を説明させていただきます。

それから、もう1つ、6大学にということでお話を向けたのですが、2つの大学の方、調整ができなくて、あと4大学ということで、明治大学、和光大学、日本映画大学、昭和音楽大学という4校を調査しております。シェアハウスと、学生が持っている住居に対する考え方、ここに住んでいてどういう魅力を感じているかというところをお話を伺っております。

この流れの中で審議テーマを確定していった中で、麻生区の魅力のブランド化とP

Rがこの若い世代に対してどういうふうに呼び込むかというところを市民のテーマにしました。

それから、空き家の利活用という中で、若い世代をうまく呼び込む中で使えないかということで、調査の段階をここ2カ月ほど重点的にやってきたわけです。

あとブランド化とPRということで、先ほどもちょっと触れましたけれども、流山の話、この辺は一通りこちらでもヒアリングを文書として出して、それにお答えをいただいたということが幾つかありました。

それから、子育てフェスタ内でのアンケートですが、9月13日に行いまして、ここに写真があるように、受付のところにアンケート用紙を置いておきまして、それで、来られた方にお渡しして、一部景品を出したということもあったので、皆さん真面目に答えていただいたのですが、300ぐらいとろうかということで、結果的に268、かなり忙しいぐらいとれました。そこで、内容についてはまた報告書等細かく触れて、いろいろな分析方法がありますので、世代とクロス集計、いろいろな形でしていただいて、今、もう1回見直してはいるのです。1つ、今までも一般的なことで言われていたことがあるのですが、子育て世代、20代、30代の方が大体中心になっております。

「緑が多い」というのを感じていると。それから、「治安が良い」、これも当然なのですが、もう1つ、「人間関係が良い」。区民会議ニュースのほうにも触れてありますけれども、「治安が良い」が73.9%、「緑が多い」が73.5%、「人間関係が良い」が60.4%というふうに、どういう地域での人間関係をやっていらっしゃるかかわからないのですが、町会等いろいろなところがあるのでしょうかけれども、「人間関係が良い」という評価がかなり多い結果になっております。それから、「交通の便が良い」というお答えも多かったです。一部、朝なんかは駅周辺は混むこともあるのですが、電車に乗れば比較的早く都心に行けるということもあたりするのでしょうか。

それから、2番目に、アンケート内の麻生区の魅力の中で、さらにPRしたいものということで、これも同様に、「緑が多い」とか、「治安が良い」とか、そういったことを中心にお答えをいただいたところが多いですね。

どういうきっかけでここに住んだかということで、「結婚をきっかけ」という方が一番多くて、次に「出産をきっかけ」ということで、ということは、ご夫婦で、住もうかといったときに、いろいろ探すのでしょうかけれども、この辺がイメージ的にいいということで来られているような感じはします。それから、「出産をきっかけ」に。子育て環境はまだ一部全て100%いいというわけではないでしょうけれども、なかなか評価がいいということです。

あと、文化施設については、この年代の方がなかなかそこまで感じていないのか、情報提供不足なのか、あるのですけれども、「文化施設が充実している」とか、「芸術のまち」についての評価というのが比較的低かったというところがあります。この辺

は今後うまく情報を発信していけるかというところはあると思うのですが、年代的に、生活だとか、子育ての中では、そう密接に感じていないということがあるでしょうか。

以上のような話が主なところなのですが、この辺の分析を、年代ですとか、それから、男女ですとか、いろいろな形でクロス分析を今しておりますが、うまく使えればという感じはしております。基本的にそんなに悪いイメージというか、もともと新百合ヶ丘は、いいところですねとよく簡単に言う言葉はあるのですが、裏づけとして幾つかこういうことがあるのかなという感じはしました。

あともう1つ、大学へのヒアリングですけれども、これも各大学、学生課の担当の方、あるいは学生にヒアリングを行いました。その中で、これは4つの大学、ちょっとずつ違うのですが、半数程度の方が自宅から通うという感じが多かったでしょうか。あとの方はいろいろなところに下宿していたり——下宿というのはいませんが、ほかに住んでいたりすることがあって、そういう人の印象を聞いています。実際に学生に聞いて、この後に話はしますけれども、魅力についての話の部分については、印象はそんなに悪くないということがあります。先ほどのように、緑が多いとか、落ちついていてということが主なところなのですが、非常に静かなところだというような感じを受けました。

それから、「空き家の利活用」というところに移りまして、この辺が若い世代にというようなことは、この地域の家賃が少し高目だということで、こういったことを利用できないかということと、同時に、一番最初の背景の中で、少子高齢化ということで、空き家がふえつつある、それから、独居の高齢者の方がかなり多くなってきつつあるということをうまくこういう話の中に組み込めないかということでやってきたのですが、市とかまちづくり局等の今までの取り組みもあるようで、神奈川県と川崎市も独自のいろいろな形で調査なり、あるいは取り組みという形でやっているようです。この辺はいろいろな情報をいただいております。

それから、王禅寺とか、東百合丘でのアンケートを行った実績等も、これも川崎市のほうでやったものもありまして、その辺のデータも少し使いながら、うまくこの辺、実態として、前回の国勢調査のときは10%程度の空き家ということですが、今回のところが明らかになるともう少しあるのかという感じはしました。うまくこれを使えるといいなど。

もう1つ、不動産業者関係の方にもヒアリングをしまして、空き家を貸してもいいという方もいるのですが、いろいろな権利関係、相続等を控えたり、それをどうするかという話があって、こここのところではいろいろな法律改正もありましたので、今後も少しは進む場合もあるのでしょうか、そんな実態があるようです。

それから、大学生に行ったのですが、この中で、映画大学はこの取り組みを

非常にやっつけらっしゃって、学生の半数程度、179名というのは大体半数程度みたいですが、そのうちの71人がシェアハウスに対して興味があって、シェアハウスで住んでみたいというような回答を、これはアンケート結果もいただいたのですが、かなり細かく調査されていて、最終的には全員にはあれですが、また再度回答をもらうということは言うておりました。その中でUR、百合丘の団地、あそこも少し空いているところがあるらしくて、そこと連携しながら、シェアハウスの試みをしていこうかということを探っているようです。URとしても、大学が中に入ってくれたり、いろいろなところでうまくいけば、そういったことも取り組みとしてやれると。映画大学の場合は寮がないものですから、そういうことを積極的にやっつけらうということをやっているようです。

音大さんのほうも、地元の理解があったり、協力があったり、それから、区役所の支援があるというような環境が整えば、こういったことの事業は実施できるのではないかと。ほかの大学さんも多分その話はあると思うのですが、1つ、空き家に学生が何人かで住むということになると、地元の町会とか、いろいろなことがうまくいかないと、何であそこであんなぎゃあぎゃあやっているんだということになるので、その辺をうまくやりながら、それと、各大学そうなのでありますが、社会貢献について学生が加わることとか、いろいろなお祭りですとか、清掃とか、それはやぶさかじゃないと、そういったことはやったほうがいいのかというお話もありました。だから、うまくシステムがつくれれば、何か動き出せるのではないかと。細かい話はまた報告書の中で触れたいと思うのですが、こういったことでやっております。

「今後の取組」ということで、一番右に移ります。まず、魅力についてですが、アンケート調査、ヒアリングに行ってきた中で、考えていたよりもというか、もともと麻生区というのは、トリプルAとは言いませんけれども、Aクラスの非常にいい環境を持っている、魅力を持っているということが改めてわかったかなと。この辺がうまくまとめて、それがPRにつながればいいのかという感じです。芸術・文化については、先ほどもお話ししましたが、若い人たちにはまだ浸透していないというか、必要性が余りその段階ではないのかもしれませんが、その辺はどういうふうに今後扱っていくかということもあります。

それから、今後の方向性というか、検討の方向性なのでありますが、この辺の話をどこに向かってどういう形でPRしていくかという話をしていきたいと思います。この間のところまでは調査結果をいろいろ分析しながら話が進んだのですが、これをさらにもう少し取りまとめてPRの方法等を検討したいと。

それともう1つ、「緑が多い」とか、「治安が良い」というのは、非常にいいことなのですが、これも1つの魅力にもなるのですが、そのことだけではなくて、何

かと組み合わせていかないといかんだらうと。先ほどあった芸術が、うたい文句というか、麻生区のまちづくりの方針としてあるわけですけれども、その辺をうまく組み合わせながらやれないかということ、具体的にどんな魅力をPRしていくか。いろいろな広報手段が区内にもあるし、外にもあるのですけれども、この辺をうまく活用しながら、あるいは新しい手段が必要なのかどうかということを今の段階では話し合いの1つのテーマにしております。今回はこの辺をしっかりともう少し議論して、方法等を検討したいなというところが1つあります。

2番目に、「空き家の利活用」ですが、これもいろいろな形で調査をした結果、学生の今の考え方として、学校によっては、集団で生活するのは嫌だよと、最近は1人であることがある学校もあったのですけれども、一方で、映画大学さんのように、映画をつくる人の資質というのがあるのかもしれないのですが、一緒に集団でやることを惜しまないというか、好むような方が多いのかもしれないのですけれども、そういうところとは若干考えが違うなど。学生に対して、若い世代に対して必要なこと、どのような機関との調整が必要なのかということ、またこれも整理しながらやっていければというふうに思います。

主な流れとしてはそんなところまで来ております。これをいろいろな情報を整理しながら、若い世代が住みやすいというところをうまく表現できればと。何か不足なところがないかなと。若い人たちを呼び込むにはまだ必要なところがあるのかなと。

フェスタの結果で、先ほども言いましたけれども、いろいろなところで、そんなにここが悪過ぎるよという話が余りそこでは浮かび上がってきていなかったものですから、比較的いい状況、子育て世代にとって十分とは言えないのかもしれないのですけれども、まあまあのところまで施設的にもいろいろな環境的にもあるのかなという感じはしました。

今後は、これをさらに1、2度進めながら、最終的にまとめるような状況になってきておりますので、次回、2月の全体会までに方向性と、もう少し具体的な何かPR方法ですとか、呼び込むべき人の対象を考えられればという話があります。

この中で、これも何回か途中で話をしているのですけれども、田舎のある都会というフレーズがあって、いっぱいいろいろなことが含まれた田舎。最近、田舎というイメージが非常にいいイメージでとられているような感じがあるので、それと、都会というのが、文化的に高い資質を持っている麻生区、あるいは交通の便が、都心からそんなに遠くないというところもあって、その辺をうまく組み合わせながら、何か外に対してやっていければおもしろいのかなという感じの話はしつつあります。

以上です。

金光委員長 ありがとうございます。今の説明について何か委員の方から補足、あるいはこういうことを確認したいということがありましたら、どうぞ。

高倉委員 今説明いただきました中で、質問というより、私の意見みたいな感じになると思うのですが、資料の真ん中のくくりのパートの中の「子育てフェスタ内でアンケート調査を実施」という四角のぼちの4番目、「文化施設が充実している」・「芸術のまち」について、年齢が若いほどあまり魅力として感じていない」と書いてありますし、右側の「今後の取組」の①の黒い四角の2つ目、「芸術・文化について、若い人たちにはなかなか浸透していない」ということで、麻生区は芸術のまちをPRしながらやってきて、ある意味、その取り組みにかかわった方々とか、行政の方々を含めて、こういう話が区民会議から出ると非常にショックではないかと思うのです。これをどう考えたらいいかなというふうに考えたのですけれども、確かにアンケートをとったときはそういうことだったのでしょうし、子育てフェスタに来られた人たちの年代を考えると、子供さんがいましたので、20代後半から30代の方々に、その年代の方々がいらしていたなというふうに思います。片や、同じ子育てフェスタの中で、催し物として、市民館の大会議室を使って、昭和音大の方々がミニコンサートみたいなことをやったら、あの会場に入り切れないほどの方々が子供さんを連れてあふれ返ったという事実があると、それが芸術とは言えないかもしれないけど、そういう親御さんたちは、子供さんに音楽に触れ合う機会を求めて、いい機会だと捉えられて、そこに詰めかけたと思いますから、その辺のところから考えると、そういう年代の方々は芸術まで大上段に構えたようなことは余り興味がないというか、若干レベルが違うと言ったら語弊がありますけれども、その辺のところの違いといいますか、そういったことでアンケート結果に芸術のまちとかに余り関心を感じていないということなのではないだろうかということで解釈したら、私たちの意見として理屈がつくかなと思うのですが、その辺いかがでしょうか。半分質問になりましたけど。

白井委員 今言われるようなお話だと思います。この議論もいろいろしたのでありますが、このアンケートの聞き方というのもあったのでありますが、専門家がやる芸術・文化みたいな形の色が濃いような質問の感じで、ホールとか、格式張ったと言うとあれですけれども、かっちりとしたところでやるような話をイメージして、それは生活の中で余り身近に感じていないというところだと思います。ですから、今後は、そういった人たちになじめるような方法の芸術の表現の仕方だとか、PRの仕方が一方が必要かと思います。これはアンケートの中身についてももう少し聞いてみないとあれですけれども、今言われたようなコンサートのときは本当に集まって、ああいうふうに関心はないわけではないでしょうから、あとは音楽やその辺についても、小さいころからやらせる方もいっぱいいらっしゃるので、そういう意味では、全然関係ないよというわけではないと思うのですが、今後はその辺を少し議論しながら、芸術・文化をほかの地域と違って、もともとここはそういうふうな形で進めているし、基本的には悪い方向のテーマではないので、その辺をうまく組み合わせながらPRできたら

なという感じはします。答えになったかどうかあれですけども、以上でございます。

金光委員長 これは1つの現象として、こういう若い世代の人たちに、今麻生区でやっている芸術のまちが浸透していないということは事実として浮き上がってきたわけですから、これはまたやっている担当者、あるいはその辺のところでも十分検討していただいて、区民会議からこういう形の現実が出たのだということで、投げかけるような形でいいのかと思います。我々がこれをどうするというは今の段階ではできませんので、そういう問題を投げかけて、芸術のまちをやっている人たちにそれをもう少し掘り下げて、これから若い人たちに浸透するためにはどのような芸術活動をしていけばいいのか、麻生区の今やっている芸術のまちというのがどういう形で浸透して、ある世代間に全てに浸透するようにするためにはどのような方法をとったらいいかということは、十分検討してもらいたいというふうに思います。

それともう1つ、今、調査で、麻生区によさというのはアンケートである程度、住んでいる人たちがかなり満足しているという実態が出てきたわけですが、中の人たちはそう思っているけど、外の人たちがどう思っているかはわからないわけですよ。これは先ほど言ったようにPRという問題がありましたけれども、これからは中だけではなくて、麻生区に住んでいる人がいいと思っている状況を、もっと周りの人たちにどういうふうに通達していくか、それによってそういう人たちを麻生区の中に呼び込んでいくということが、1つのPR活動として必要になってくるのだろうという感じがします。先ほど白井委員が言われたように、どういふようなキャッチフレーズ、あるいはどういふような文句でそういう人たちに対してアプローチしていくか、多分麻生区の中でもそういう努力とか、そういう活動が十分に行われていなかったのではないかなというふうには思いますけれども、その辺を踏まえてこれから十分検討して進めて、そういう面での提案をしていけばいいかと思います。

白井委員 1つだけ。先ほど芸術・文化の話が余り魅力として認識されていないというのが、数字的にここに載っていないので、どの程度かなと皆さん思われるかもしれませんが、20%前後だったと思います。かなり本当に低いんですよ。一方で、「治安が良い」は73%とか、「人間関係が良い」が60%いっている割には、その辺のところは非常に浸透されていないなど。年代的にそれが先ほどから申し上げているようにマッチしていないというところもあるのかもしれませんが、そんな状況でした。

金光委員長 どうもありがとうございました。

岡倉副委員長 私も、このアンケート調査結果を見せていただきまして、麻生区の子育て支援の行政はうまくいっているんだなという印象を持ちました。これを見る限りでは、今、子育て中の方に対しては支援というか、行政がうまくいっているのだなということを非常に感じております。私は緑が多いとは思っていませんが、40年も住んで

いますと、緑は少なくなっているというふうに思っているのですが、若い人にとってはこういうふうな感じで。そして、「治安が良い」。以前に、区民会議に寄せられた意見の中で、鶴亀松公園でしたっけ、そこで子育て中の方々がコミュニティーをうまくやられて、子育て、本当にうまくやっていますよというふうな、笑顔が絶えない公園になっていますよというふうなことのお手紙があったのですけれども、そういうことがいろいろなところで行われていて、私なんか考えると、公園だって結構治安は危ないんじゃないかなと思いますけれども、若い人たちが集まっているところ、意外と治安もよくて、そういうことで非常にうまくいっているんだなというふうに思っています。

先ほどからの芸術のまちのところで、余り関心がないというのは、多分、芸術のまちを進めていくに当たって、そこをターゲットとしていないという、ただそれだけなのではないかと思っています。

最後に、1つ質問をさせていただきたいのですが、「大学へのヒアリング調査を実施」ということで、ここが一番下のところで、「区役所の支援があれば」と書いてあるのですが、区役所の支援があればできますよというふうに読めるのです。これからどういふふうなことがあればということが議論されていくのかもしれませんが、その辺で、こんなふうなことを考えられたらシェアハウスできるよというのがありましたら、もしよければ教えていただければと思います。

白井委員 この中では表現ができていないのですけれども、各地域、今、行政がかなり積極的にシェアハウスを進めている、横須賀ですとか、多摩大学のほうですとか、幾つか事例はあるようです。そこまでのところというのはなかなか難しいかと思うのですけれども、情報をどういふふうに与えていくかとかという中での役割だとか、幾つかあると思うのですよ。役所がやれる。あとは、専門の業者だとか、シェアハウスバンクみたいな、情報をそこに集約するような話をどこでつくっていくかということが、NPOか何かをつくるか、いろいろなことがあると思うのですが、そういった中での支援とかがあるので、直接的な支援も当然あればこしたことはないのでしょうけれども、そういったところをうまくつくれるようなシステムづくりみたいなことをやったらどうかということが、最終的にはまとめの中では議論される場所かと思っています。

金光委員長 いろいろなデータを調べてみると、うまくいっているところは、地域の不動産業者と、地域の住民と、それから、行政との三位一体の連絡がうまくとれているところは、このシェアハウスなんかはうまく進められているところが多いのですよ。既に全国で数百ぐらいのところがこのことを取り上げていますけれども、うまくいっていないところというのはばらばらでやっている。ばらばらでやっているところは何が悪いかというと、情報が上がってこない。どこに空き家があるか、よくつかめな

いとか、それから、それに対しても、持っている家主さんとの交渉がうまくいかなくて、なかなか空き家を利用できないとか、そういうようないろいろな問題があるみたいで、だから、この辺のところで、今後やっていく場合に、多分、麻生区でやるにしても、民間だけでこれを実施するとしてもなかなか難しいかなという感じはしています。実際にいろいろなデータを調べたりなんかした段階では。そうすると、やっぱり何らかの形で行政がそこに絡んで信用を付加する。借りる人も貸す人も、そこに行政が入ることによって信用がつくわけですよ。そこでさらにそれがうまく利用できるような形になる。そういう支援がされれば、こういう空き家対策もうまくいくのではないかという支援という形で解釈してもらえるとありがたいのです。多分今のあれは、何か金を出せとか、そういう支援という形で捉えたのだと思うのだけれども、そうではなくて、借りる人、貸す人に対してどういうふうな信用をつけて、この制度がうまく運用できるかどうかということを考えていく上で、そこにある程度役所が関与するということが重要になるのかと思っています。そういうふうに理解していただければと思います。

菅野副委員長 先ほどの文化・芸術のことについてのパーセントが問題にされているわけですが、ここでちょっとお断りしておきたいのは、区民全体でのパーセントからいけばかなり高い認識をされていると思うのです。これは第4期のときも、それ以前からのデータもそうですけれども。ですから、なぜ低いかという、これは問題にしているのは私たちのテーマが、若い人たちを引き入れていくというのがテーマですから、その問題から考えていくと、若い人たちの20%前後の認知度をもう少し何とかしていく方法があるだろうかということであって、その辺のところはちゃんと仕分けておかなければいけないと思っていますところ。

石井（よ）委員 空き家の利活用なのですから、現在、麻生区ではシェアハウスとか何かをしているようなデータとか、問題点とかはあるのでございますでしょうか。岡上では時折何軒か見るのです。

白井委員 データとしては実態はつかまれているようではございますけれども、いろいろな人の話の中で、うちはやっているよと言う人もいますし、現実に私の知っている人もいますし、あることはあると思うのです。その辺は実態はつかめていないと思いますけれども。

石井（よ）委員 それはやっぱり若い人対象で。

白井委員 そうでしょうね。学生さんがというところもあるし。

石井（よ）委員 シニアのシェアハウスではない。

金光委員長 高齢者も対象になるのですよ。実際は。破綻老人というのが出てくるし、それから、独身の男性が困っている、そういう人たちに安く提供する、そういうこともあるので、若者だけではないのだけれども、利活用となったときには、世代間関係な

く、例えば1人世帯で子育てしているご婦人の人たちとか、そういう方々にもそういう形で安くできるような環境づくりということになりますから、実際は若者対象という形だけで限定するのではなくて、我々は若いほうを対象で検討しているから、今、若い人を対象にしていますけれども、実際の空き家の利活用となった場合には、広い範囲内の利活用という形になると思います。その中の一部として若者、あるいは学生とか、給料が少なく、いい住宅に住めないというような人たちもそういう救いを与えて、安く利用できる場所を提供できるような環境づくりをする必要があるだろうということなのです。

石井（よ）委員 ご回答ありがとうございます。

あと、芸術のまちのところなのですが、若い方々は着飾ってどこかのホールに行くというのは大変ハードルが高くて、例えばあそこの大会議室で座りながら、子供も遊びながらという、親子一緒というのがかなり多いようにお見受けしますので、先ほどからどういうふうな芸術のまちをつくらうとしているのか、その辺のところをもう少し。施設はあるわけですから、それをどういうふうにご利用するかとか、あるいは緑の中で、田んぼでジャズをやるとか、いろいろなことが考えられると思います。緑に関して言うと、これは別に緑が多いということではなくて、子供を遊ばせる場所としてのフリースペースとしての空間のことも含めて言っているのか、あるいは畑や田んぼがあるとか、そういうことも踏まえているのかという印象を持ちました。

白井委員 若い人が好むコンサートのスタイルが、全部立って聞いていますから。座って聞いているようなホールは、テレビで見て、ご存じのように。だから、違うんですよ。そういうところは麻生区にはないですから。いろいろな見方があると思います。それをつくっていかどうかというのはありますけど。

金光委員長 私的な意見で言えば、今、音楽会をやっても、若者が好むようなポップだとか、ジャズだとか、そういったような形のもので大々的にされていないでしょう。だから、ちょうど子育ての20代、30代の方々の音楽の趣味と、それからちょっとずれているのかなど。むしろ高齢者の好むような音楽が、クラシックだとか、オーケストラだとか、オペラとかという形になると、どちらかというと、高齢者の、我々ぐらいの年代の人たちがよく聞く音楽で、若い人になると、もうちょっと軽い音楽、軽音楽的な形のもので好むのだろうけれども、そういう若い人気のある人たちは麻生区に来てやっていないから、ここの人たちは余り興味を感じないのかもしれない。その辺のところは予算とかいろいろなことがあるので、言えないけれども、そういうのを加味して、もっと若い人が興味があるような形の音楽も時々やるようなことを検討してもらえばいいのではないですか。と思いますけど。

菅野副委員長 委員長は私見と断っていますけど。

金光委員長 私の私見です。

大分いろいろと議論が出ましたけれども、よろしいでしょうか。

それでは、この議題はこれで終わりとしまして、次の議題へ進みたいと思います。

イ 市民活動・地域活動の活性化部会の検討経過及び意見交換について

金光委員長 それでは、市民活動・地域活動の活性化部会の岡倉部会長よりご説明いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

岡倉副委員長 それでは、資料4でございます。市民活動・地域活動の活性化部会調査審議状況ということでご報告させていただきます。

まず、今までの簡単な流れからなのですけれども、3のところの「審議テーマの決定」です。優先テーマということで、活性化部会のほうでは「ボランティアの活動促進」ということで、このボランティアといえば団体の話もありますし、個人の話もあるのですが、今は個人のことには特化して議論をしております。

4番を見ていただくと、「審議対象の検討」ということで、これはこれまでいろいろ部会の中で議論してきた、それをまとめたら5つのSTEPになったということで、その中のSTEP2というところ、「何らかのきっかけで一步を踏み出してみる」という、そこに焦点を当てて踏み出していただくということが、5の「具体的な審議内容の設定」ということで、ここで方向性が出ています。ここで「ボランティアをしたい人や関心のある人がボランティア活動への一步を踏み出せるように、受け取りやすい情報発信の仕方やルートなど、気軽に参加できる仕組みを検討する」ということで、方向性を決めております。

それでは、そのターゲットをどうしようかということで、6番のところ、「何をやりたいのかわからない「もやもや」している」と書いてありますけれども、とにかくシニア世代の方、60代から70代の方を対象にして、もやもやしている人に一步踏み出してもらおうということを考えています。

7番のところ具体的な仕掛けとして、どういうふうにやりましょうかということを検討しておりましたら、ことしの3月でしたか、川崎市のシティプロモーションという形での報告書が出されました。このシティプロモーションというのは、市内外の人に川崎の魅力を浸透させる、PRするという意味なのでしょうけれども、そういうふうな取り組みをするに当たってどういうふうにしましょうかという形の中で提案がされていまして、その魅力の浸透とか促進をさせる方法として、コミュニケーション戦略ということがその中で書かれています。これは情報を受け取った人々の意識や行動、それを変容——変容というのは難しいのですけれども、早い話が、意識を変えるという、そのための戦略ということなのです。その戦略がここの5つのSTEPになっています。5段階。まずは知っていただいて、関心を持ってもらって、調べる、そして、行く、体験する、関係づくりをする、この5つの段階でそれぞれ情報を発信し

ていきたいと思いますというふうなことがこの中で書かれて、そういうことで、受け手の意識を配慮した情報発信をしていきたいと思いますというふうな内容でございます。

そこで、部会としましては、「知る」と「関心を持つ」というところなのですけれども、ここに焦点を当てまして、今回は調査をしております。「知る」というのは、ボランティアについていろいろ知っていただくということです。ボランティアはそもそも今までのような慈善活動とか社会奉仕ではないのですよということを知ってもらえたらいいなというふうに思っております。「関心を持つ」というのは自分事にしてもらおうということです。それで、そのアプローチとして、ここに書いてあります、自分事にしてもらうわけですから、ボランティアは健康寿命を延ばしますよというふうなアプローチの仕方をしようということで、こっこのほうの「区民との意見交換の実施」ということで、10月31日をやっております。

それと、右のところに書いておりますけれども、9月10日に、「麻生老人福祉センターへ現地調査の実施」ということで、現在、いこいの家は区内には7カ所、麻生老人福祉センターは各区に1カ所ですか、そういうふうな形であるのですけれども、そこが60歳以上でないと利用できないということになっていますので、そこで、もし何かのきっかけで一步踏み出してみたいという人をボランティアに誘うという形で、どうすれば誘えるかという目的で、調査をしております。

それでは、まず、「麻生老人福祉センターへ現地調査の実施」のほうから報告させていただきます。ここへ行きましたのは、所長さんを初め、職員の方々の対応がすばらしいのです。とにかく人当たりがいいと言ったら変なのですけれども、すばらしくこちらの意向を配慮して、いろいろ見せていただきました。行ったときは、お昼に配食サービスというのですか、それを50食用意するというので、調理室で団体の方ですか、一生懸命調理をされていました。あと、パソコンの教室みたいなのもあって、そこで一生懸命パソコンを教えられている方とか、体育室では卓球をやっておられましたね。そんな話がありまして、たまたまゲートボールはお休みだったようだけれども、そんなところがございました。そこへ行って、どういうチラシが置いてあるかとかというのをいろいろ見させていただいたのですけれども、ここはサークル活動が中心になっていまして、利用される方は自分たちの例えば体育室があれば、卓球をやりたいということであれば、何も見ないですぐ卓球場へ行ってしまおうというような動線というか、そういうふうになっていまして、ボランティア活動といっても関心を持ってもらえるのはなかなか大変なのですよということを聞いたのですが、やはりボランティアを必要としている活動分野とか、相談窓口の情報提供をすることによって、利用者の関心を引くきっかけにもなりますという話を伺っております。情報を発信すれば何か答えていただけるということだと思います。

そういう中で、「方向性」のところを見ていただきたいのですが、「今回の調査がき

っかけで、区民会議委員の働きかけにより、市民活動のチラシ（市民交流館やまゆり）を麻生老人福祉センターに配架するという取組が始まりました」。ですから、今までは福祉関係のボランティアの情報はあったのですが、そのほかのボランティアの情報というのはなかったのですよ。それが新たにこちらのほうに置いていただけということで、ボランティアの情報がここでも発信するということになりました。その後、ボランティアに来ていただけると非常にうれしいのですけれども。

そういう中で、疑問と言ったら変ですけれども、この福祉センターの1日の利用者数は26年度は平均して149人なのです。いこいの家が7カ所ありまして、1日に277人なのです。そうすると、60歳以上の人426人ぐらいの人が毎日利用されているのです。それで、麻生区の60歳から79歳の人口が3万7000人ぐらいいらっしゃいますから、1.1%とか1.2%、そんな感じの人が利用しているという状況が発生しているなというふうに思いました。私なんかも利用できるのに、利用するのはなかなか、私なんかより上の人でいっぱいになっていると、こういう高齢者、60歳以上の人を市民活動とかに利用する、そういうところはいっぱいなのかなというふうな感じでした。特に麻生老人福祉センターでも、会議室とか、体育室の利用のお話を聞きましたら、2カ月ぐらい先までもういっぱいですよみたいな話がありましたので、いこいの家のほうはどうなっているかわかりませんが、そんな状況があったということです。

それでは、次に、「区民との意見交換の実施」ということでお話をさせていただきます。10月31日に、麻生区健康づくりのつどいに参加しまして、この下に書いてあります、このテントを設けて、そこで、このつどいに参加した人と意見交換しながら、その人の意見を調べて、ここに書いてありますけれども、127人の意見をまとめて、それをボードに張りつけていくというふうな方法で意見を集めました。まず最初に、「ボランティア活動に関心がありますか?」、ありませんかということで、YES、NOで、これは、関心ある、ないということで、ここに点々がいっぱいありますけれども、そんな形で伺っています。あとは関心ある人に対して、「ボランティアに参加したことがありますか?」ということで、これもYESとNOで聞いています。その後は「ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか?」「どんなきっかけがあれば参加しますか?」「気軽に参加できるようになるには何が必要だと思いますか?」と、これについてはフリーでお話を伺っています。意見交換しながら伺っているという状況です。

こういうふうな分析は初めてなのですね。先ほどのアンケート調査とかというのは、定量分析というのですか、全体と部分を比較するとか、これはこんなにあるとか、先ほどの芸術のまちは少し少ないねとかという話になると思いますけれども、こういうふうな分析の方法は定性分析という形で論点を出そう、どういうふうな問題が

——問題というか、これから議論していく中でどんな点があるかという論点出しというによく用いられております。これも部会議の中で、部員の方がこういうふうにやったらどうかというふうな話があって、最初はどうかと思ったのですけれども、結果としては非常によかったのではないかというふうに思っています。ただ、まだ詳細な結果はまとめていないので、どうなるかわかりませんが。それぞれの方から聞いた、これは本当に簡単な意見なのですからけれども、いろいろ書いてございます。

この中で「参加したいけど、どこに情報があるのか、わからない」というふうな意見もありました。終わりました後、部員同士で、どんな感想でしたかという話で、30分ぐらい意見交換をしています。そういう中で、今言ったような、どこに情報があるのかわからないという話なのですからけれども、でも、こんなに多くボランティアの情報をさまざまな方法で発信しているのに何で届いていないのだろうというふうな、それが論点と言えばこれからの論点で、それを解決するにはどうしていくのだろうということでもた議論が始まると思いますが、この論点についても、今までの部会の議論の中で、ここはやっぱり届いていないみたいだねというふうな話をしていましたので、それが確認できたなという話だと思います。

この中で、余り関心ないよ、ボランティアなんかやらないよというふうな話もございました。結構きつくて、否定的で、もうやりませんとかという話で、私もそういう人から話を聞いていて、お稽古事がいっぱいできませんとかという話を聞きましたけど、そういう人たち、さっきお話ししましたけれども、ボランティアというのは慈善とか社会奉仕というのですか、人のためにやってあげるよとか、してあげるよという意識とか、世のため人のため、我が身を犠牲にするというふうな、そんなふうにボランティアというのを思っておられる方がまだいらっしゃるのかなという。それも1つの論点になるのかなということを感じております。また、「特技や語学を生かしたい！」という人、そういう人が意外といらっしゃるのですね。今までも麻生区にはそういう人材が多いですよというふうな分析とかがありましたけれども、やはりそういうふうな意見が実際に聞いております。そうすると、そういう人たちの受け皿をつくるというか、そういうのを設けてあげないといけないのではないかというふうなことも論点になるのかなというふうに思っております。

これでこの意見については最後になると思うのですけれども、自分の庭を掃除していて、ついでに家に面した歩道を掃除する、それってボランティア活動というふうな話なんですよ。でも、ボランティアって大体そういうことから始まったんですよ。それを大きく考えたら、みんなで自分の家に面している道路をきれいにしたら、麻生区、すごいきれいになってしまいますよね。それって基本的なことを言われたというふうなことで、これが終わった後、皆さんで感想を言われたときには、私個人としてはそのことがすごく印象に残っています。

ということで、「今後の検討事項」なのですけれども、今度の部会では、「詳細な結果は次回部会で検証」ということなので、いろいろ集められた意見の中から論点を出してそれを解決するために、多分今まで議論してきたことと重複すると思うのですけれども、そういうことについて意見交換しながらつくっていきたいというふうに思っています。

「ボランティアの活動促進のための具体的な検討」ということを始めて、その後、提言を取りまとめればというふうに考えております。

以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。今の意見に対して補足説明、あるいはご意見ございますか。

このボランティアについてずっとご検討されてこられて、ボランティアというのは、この部会でどういうふうに定義づけて、どういう姿が真のボランティアなのか、今、社会奉仕とか、それとはまた違うというふうな意見が出ましたけれども、一体ボランティアって何ですか、その辺のところをはっきり、どういうふうに定義づけてボランティアというものを議論されてきたのか、お聞かせ願えませんか。

岡倉副委員長 この区民会議というのは、暮らしやすい地域社会の形成、それに向けて、地域の課題を解決していきましょうというふうな話になると思います。そういうふうなことをもっとぶっちゃけた形で言うと、もっとこうだったらちゃんとみんな暮らしやすいよねというふうな感じで、もう少し下げていっちゃうと、例えばここ花いっぱいだったら暮らしやすいよねという話、ここにお花があったらいいよねというふうな話があったら、それを何人か集まってやりましょうというふうな形になったら、それがボランティアでいいのではないのかというふうに個人的に考えています。ただ、部会の中では、ボランティアというのはそもそもどうしようということでは議論を確定はしておりません。

金光委員長 ボランティアというのをわからないで議論しているような感じがするのですね。我々が議論しているボランティアというのはこういうボランティアだという形のことをもう少しはっきり出すべきではないかと僕は思うのだけれども。それで、我々はこういう形のボランティアを提言しますというふうな形のほうがわかりやすいのだけれども、いろいろなボランティアの形があって、どこでボランティアするのか、何をボランティアするのか、どういう人がボランティアに理想的なのか、ボランティアを集めるのはどういう形でやるのか、集めるのがボランティアなのか、自発的に来るのがボランティアなのか。欧米の場合は集めるのではないのですね。ボランティアというと、自発的に知らないうちにそういう団体が出てきて、活動をし始めてやるという形がボランティアという形なのだけれども、日本の場合は、オリンピックをやるからボランティア募集しますとか、清掃活動をしますから皆さん出てきてください、誰

かが呼びかけてボランティアが来るというのが日本のボランティアなのだけでも、そういうボランティアを求めているのですか、それとも、欧米型のボランティアを求めているのですか、地域の中で自然発生的に出てくるようなボランティアづくりのためにはどうするのかというような形でボランティアというものを考えられているのか、その辺のところをはっきりしておかないとね。お手上げでボランティアするのだったら、誰がお手上げするのだと。地域でやるのか、役所がやるのか、高倉さんがやるのか、誰かボランティアを集めるための手振りが必要なのか、そういう形にならないとボランティアは集まらないわけですよ。だから、その辺のところをやっていると、今、ここでボランティア、ボランティアと言っているのだけれども、どこでやるのか、何のボランティアなのか、どこを対象にしてするのか、それをやることによってどこが役立つのか、恩恵を受けるのか、全然、わからない。

石井（よ）委員 だから、ボランタリーな社会をつくるためにこういう活動をしている。
金光委員長 何でもいいわけね。

石井（よ）委員 いや、わからない。ボランティアの範疇をどうするかということに関しては、部会でかなりおやりになったと思いますけど。

金光委員長 このまま投げかけられると役所は困っちゃうんじゃないかなと。どうやってボランティアを養成するのか、はっきりわからない。

石井（よ）委員 ボランタリーな社会の形成を目指して。

金光委員長 そういう形のことをやってくださいという提案になるわけですね。

石井（よ）委員 だから、そういう機会を多く設けて、この場合は役所が絡んだほうがいいんじゃないのとか、こういう場合は情報センターがあったほうがいいんじゃないのとか、そういうことのように思ったのですが。

金光委員長 そういう形で検討されるわけですか。

宮本委員 その意見は非常に厳格な範疇というのはあえてつくっていないのですよ。さっき金光さんおっしゃったように、欧米、そういう点での先進的な社会は自発的なグループが自然発生的にできると、それは非常にいいことなのだけれども、我々としては、この社会——社会といたって地域のエリアはどの程度広いかということ、これもそれなりに決めて、我々は麻生区でやっているわけだけれども、でも、川崎市で敷衍すればいいと思いますよ。そういうきっかけ、ボランティアが欲しいという、需要と供給のバランスがやっぱりとれていない、少ない、それと、どんなことにボランタリーに参加するかということも、人の性格等、社交性とか、いろいろある。ボランティアというのは、さっき誰かがおっしゃったように、社会奉仕という、そういう厳格な範疇ではなくて、私どもが小学校のころの社会奉仕、滅私奉公、そういうのではなくて、もっと気楽な、気軽な、オープンな感じで、社会の中に飛び込んで、多少でも社会に潤いをつくらうと、そういうきっかけをつくる方向を考えているわけです。で

すから、今、委員長がおっしゃったように、ボランティアとは何だと、そういう厳格なあれをあえてつくろうという気持ちはないのです。

石井（よ）委員 そこに向かう。

宮本委員 きっかけをつくる。それから、需給をマッチさせる。どうすればマッチさせるか。それはやまゆりもあるし、市民館もあるけれども、そういうところと有機的に組んでやってやるかとか、そういうことをやっていることだと思います。お答えになっているかどうか。

金光委員長 わからないから聞いただけで。

宮本委員 だけど、余り厳格なね。

金光委員長 皆さんがはっきり理解してね。

石井（よ）委員 厳格な範疇を決めてではなくて。

宮本委員 あえて決めていない。

高倉委員 私も今宮本委員がおっしゃったのと同じなのですが、我々の議論の中でボランティアとは何ぞやという定義はあえてしないみたいな、そういう考え方もあったのです。確かに今宮本委員がまさしくおっしゃったように、社会貢献とか、何々をしてあげるとか、そういう発想ではないよねと。ことしの冬に、1月、2月、3月でしたっけ、やまゆりで、区との協働事業でボランティアの講座がありまして、我々部会のメンバーは結構受講したのですけれども、その中でもあえて定義みたいなものは明確ではなかったです。ただ、ボランティアとは何ぞやと言ったら、あなたがいるから私たちが寄り添うという、そういうスタンスで物事に取り組む姿勢の方々を言いますみたいな話ですので、ちょっと抽象的でわかりづらいのですけれども、社会貢献、何かやってやるぞ、上から目線で助けてあげるぞみたいなことではないのがボランティアだなということで、そうだねという話で、部会の中で意思統一というか、考えが出ておりました。そういった中で、じゃ、ボランティアをどうするかという話の中で、私たちのターゲットは、退職されたシニアの方々、家に閉じこもっている方々を引っ張り出して、社会活動をしていただくような活動ができないかということで、議論していこうという方向性ですので、まさしく私たちの目指すボランティアは、先ほど申し上げましたような、何か社会に出て、困っている人ではなくてもいいのですが、あなたがいるから私たちがいる、寄り添ってあげるみたいな、そういう精神でいいよねということになっていますので、ちょっと抽象的ですけど、そういう考え方でスタートしております。

金光委員長 小さいサイクルで言えば、自治会の中の住んでいる隣組、向こう三軒両隣がお互いに協力し合うということもボランティアなんですよ。お互い助け合う。だから、そういうふうな共助という精神の中でお互いが活動し合うという環境が生まれてくることがボランティア社会だろうと僕は思うのです。そういう社会を目指してい

く。それがうまくできたところで社会が活性化されてくる。お互いに理解されて、幸せな社会が実現できるのだというふうに僕なんかは考えているのです。皆さん方がそれをどういうふうに考えられているか、お楽しみにしていますので、よろしく願いいたします。

石川委員 補足なのですけれども、いつでも、だれでも、できることをやるという、そういう感じのことで、この前のボランティアの講演が市民館であったのですけれども、学校でおはよう、おはようと、子供たちに私たちぐらいの年配の方がたくさん。世田谷のボランティアの方が説明してくれたんですけど、おはようと言うこと、それもボランティアかなど。昔の考えのボランティアとちょっと違う感じで。この前も区民の方にボランティアをやったことありますか、いや、時間がなくてできませんとか何とか言っていたのですよ。地域の自治会の役員をやったり、いろいろなことをやったり、お掃除をしたり、そんなのも全部ボランティアに入ると大きい意味では思うのですけどねと言ったら、ほとんどの方がそういうことは全部しているという方で、していないという方がほとんどいなかったのですよ。だから、それを地域のために、もう少し昔のように——昔のようになるかわからないですけれども、地域がもっと密接に、今、どんどん、地域の人、高齢の方を利用して、小学生との交流をどんどん持ったり、そういうことをやっていくことがいいのではないかという声があったのです。私は岡上にいるのですけれども、意外と岡上は老人の方が岡上の歴史を小学校に行って話をしたり、あとは田んぼで稲をつくったり、世田谷との交流なんかも非常に多いのですよ。ですから、それもいいんじゃないかなということ。昔のボランティアとちょっと違う感じで今私たちの部会はやっているような気がします。

金光委員長 今石川委員の言っていることがまさにボランティアですよ。だから、そういう輪をどんどん広げていくことが一番いいのではないかと思います。ひとついろいろな形で検討していただいて、いい提言がされればというふうに思いますので、よろしく願いします。

それ以外に何かございますか。

なければ、次の議題へ入りたいと思います。

(2) 区民会議フォーラムについて

金光委員長 区民会議フォーラムについて、企画部会長の高倉部会長よりご報告をお願いします。よろしく願いします。

高倉委員 私のほうから、区民会議フォーラムについて説明させていただきたいと思えます。資料は5-1から5-3です。資料に入ります前に若干お話しさせていただきます。区民会議フォーラムは、私自身は1期、2期の状態は把握しておりませんが、3期、4期の区民会議では開催されております。内容的には、講演会とか、パネ

ルディスカッション、それから、関連する資料の展示みたいなものがあったと思います。目的につきましては、区民会議の認知度向上が1つ、それから、審議テーマを紹介しながら、関連の情報を区民の皆様方に提供するというのを目的としているのだというふうに感じております。

そこで、第5期については、区民会議フォーラムをどうするかということで、企画部会を中心に検討したという結果についてお話しさせていただくということでございます。

まず、各部会のメンバー、委員の皆様方が区民会議フォーラムについてどうお考えかということで、各部会にお諮りいたしました。その結果、若い世代部会のほうでは、大学の先生に講演をお願いしたらとか、両部会のテーマが折り合わなければ、市民活動部会を中心に開催したらどうかという意見もございました。最終的には企画部会に一任するというご意見をいただきました。

一方の市民活動部会のほうでは、ぜひ開催したいという意見が多数でございました。また、テーマに関する研究者をお招きして講演会を開催したらどうかという意見もございました。

この両部会の意見を踏まえまして、企画部会で検討させていただいた結果、両部会のテーマが異質と申しますか、かけ離れている部分もございましたので、これらを無理にくっつけてフォーラムのテーマをつくっても若干無理が生じるということ、それから、区民の皆様方からも受け入れられず、来ていただけないのではないかとということも考えられますという意見がありました。もう1つ、今後の審議スケジュールを勘案しますと、フォーラム開催云々かんぬんに余り議論をかける時間的な余裕がないということもございます。そういった意見を踏まえまして、今回は市民活動部会のテーマに関する内容を中心としたフォーラムにしていこうという結論に達しました。

そこで、資料5-1でございます。まず1番目、趣旨になっておりますけれども、これは先ほど私が申し上げたようなことでございますので、ごらんいただければと思っております。

それから、企画内容や構成について、若干順番が逆になって申しわけないのですが、先ほど申し上げた市民活動部会のテーマに沿ったという形になりますと、ぼちの2番目、市民活動・地域活動の活性化部会で検討されました、具体的な名前が挙がっておりますけれども、東京都健康長寿医療センターの藤原氏の活動がテーマに沿っているので、講師として打診していく方向で調整予定ということでございます。この藤原氏というお名前がいきなり出ましたけれども、この方は高齢者の社会参加とか社会貢献をテーマといたします研究者で、多摩区でも、「地域でシニアライフを2倍3倍楽しむヒントを探ろう」みたいなテーマで、講演、ワークショップをされた実績のある方で、市民活動部会のテーマにも近いということで、ここでは打診になっており

ますけれども、順番が逆になって申しわけないのですが、実は岡倉部会長のほうから既に打診をしていただいたということでございます。そういった流れになっております。そういった講演を中心とした内容としていきたいと。もちろん講演のみならず、これからまた中身は詰めていきますけれども、講演の前に両部会の区民の皆様方に対する審議の進捗状況の簡単な報告みたいな部分も取り入れていきたいということで構成したらどうかという意見が出ております。そういった形のフォーラムにしていきたい。具体的にはまだこれからというところでございます。

なお、若い世代が住みやすいまちづくり部会につきましては、区民の皆様方に審議の結果等をアピールする機会については、任期満了の時期までに、いい機会を捉えまして、例えば報告会のようなものを開催していくことも可能ではないかという意見も挙がってきておりました。そういったことで、繰り返しになりますけれども、市民活動部会のテーマに沿った形で、ここに書いてあります、藤原氏を講師として講演会を開催するようなフォーラムにしていきたいということでございます。

3番目に開催日程についてということで、日程案というふうに書いておりますけれども、先ほど申し上げましたように、既にコンタクトした結果、相手の都合の一番いい日が来年の2月21日、日曜日ということで、これは第1候補としての案でございます。きょうの承認を得て正式に決めるという形になるかと思っておりますけれども、そういった形で、場所はこの会議室、広報については、そこに書いているような形でということで進めさせていただきたいと思っております。

ということで、説明を終わります。

金光委員長 ありがとうございます。フォーラムについて何かご意見、あるいは補足説明はございますでしょうか。

なければ、次の区民会議ニュースのほうへ入りたいと思っております。

(3) 区民会議ニュース3号について

金光委員長 区民会議ニュース第3号の内容について、高倉部会長よりご説明をお願いしたいと思います。

高倉委員 それでは、区民会議ニュース3号の説明をさせていただきたいと思っております。資料につきましては、資料6でございます。

前々回の全体会議、区民会議ニュース第2号を発行するときにも私はお話しいたしましたけれども、区民会議ニュースの発行の目的についてですが、目的の大きなものとしては、区民の皆様方に見てもらふことによって、区民会議の認知度の向上を図ることが1つでございます。当然、中身については審議状況を報告することを目的として、区民会議ニュースを発行しているところでございます。そのようなことを踏まえまして、いかにすれば、また、どのような内容にしたら区民の皆様に見てもらえるか

を考えながら、広報担当の岡倉委員を中心に企画部会で内容を検討して、きょう、案を提示させていただいているところでございます。

お手元の資料6でございますけれども、今回の編集のポイントを先に申し上げますと、前回、第2号では、審議テーマに関する第5期区民会議の各部会の委員の意見を中心に掲載してまいりました。今回の第3号では、各部会とも、課題解決に向けました具体的な活動を行っておりますので、その中で得られました結果とか、区民の皆さんの意見、考えも掲載しているということがまず1つのポイントでございます。これは、前回の第2号の検討を行った、まさしく全体会議のこの場で、区民会議ニュースには、委員の意見だけではなくて、区民の意見も掲載してはどうかというご意見もございましたので、そういったものを踏まえたものというふうに捉えていただいて結構でございます。

具体的な記事の内容でございますけれども、資料6をごらんになっていただければと思います。構成につきましては、タイトルがありまして、その下のほうに、「各部会の取組み状況」、若い世代部会と市民活動部会が裏面に書いてございます。細かい内容につきましては、先ほどから両部会長が進捗状況をご説明されました。それに沿っておりますので、ここで説明は省略させていただきたいと思います。大まかな中身としては、まず、若い世代部会が住みやすいまちづくり部会につきましては、9月13日に開催されました子育てフェスタ時に実施したアンケート調査の結果とか、空き家利用に関して近隣の大学に聞き取り調査を行った結果を中心に記事で構成しております。

次に、市民活動・地域活動の活性化部会のほうの欄では、これも先ほど話にありましたとおり、10月31日の健康づくりのつどいのときに実施しました、区民の皆さんへのインタビュー結果を掲載しております。

そして、その下、最後に、これまでこの区民会議に寄せられた意見が幾つかございますけれども、これらに対する区民会議としての対応に触れるとともに、その意見の内容を簡単に掲載しているということでございます。こういった構成で今回発行したいというふうに思っております。

今後の発行スケジュールにつきましては、きょうの会議を経まして、11月19日に印刷、同日付で発行して、印刷に当たりましては区民会議のメンバーで印刷、発送事務をいたしますけれども、準備が整いました後、町会等へ配付いたしまして、12月中には区民の皆様方にごらんいただくという段取りで進めさせていただきたいということでございます。

以上です。

金光委員長 ありがとうございます。区民会議ニュースについて何かご意見ございますでしょうか。

お手元の区民会議ニュースを見て、内容を直してと言っても間に合わないのですけ

れども、日時が迫っていますので、この形で発行させていただきますので、ご了承願いたいと思います。よろしく願いいたします。

(4) その他

金光委員長 それでは、本日の議題は以上になりますが、本日、お忙しい中、ご出席いただきました参与の皆さんからも、麻生区区民会議へのご助言や、きょう検討された内容についてのご感想等をお聞かせいただければと思いますので、まず、月本参与からお願いいたします。

月本参与 大変遅参しまして、つい5分前に来たものですから、資料を今全部目を通させていただいたところで意見を申し上げるのは恐縮なのですが、皆さん、お疲れさまです。私もこれまで議論の経過をお聞きしていて、活動の経過を見させていただいて、きょう、資料を目を通させていただいた中の感想として、若い世代が住みやすいまちづくり部会の大学へのヒアリング調査を実施ということで、実際に現地に足を運んでヒアリングをされたということでございます。これは以前私も申し上げましたが、現地に行かないと聞けない声とか、意見募集するだけでは聞けない声というのがたくさんあるので、こういったところに足を運んでいただいたので、私も一応若い世代としてはありがたいお話だと。特に大学生なんかはいろいろな発想は持っていますけれども、意見を下さいと言うとなかなかあれですが、足を運んでいただいて、胸を開いてくれるところもたくさんあったかと思います。この調査結果等を私も見させていただいて、非常に期待できる皆さんの調査のやり方だなというふうに思いました。

もう1点の市民活動・地域活動の活性化部会のほうなのですが、私はたまたまきのうまで宮崎市に出張しておりまして、宮崎市のほうで、中学校区ぐらいの単位で、宮崎市は合併しているという経緯もあったので、その単位で地域を運営していこうという、そういった試みでこの10年間ぐらい取り組まれていました。区民会議も10年ですけれども、10年ぐらいたって、ボランティアのあり方とか、ちょいボラという言葉を使っています、ボランティアというと、ここでも皆さん議論で前回も出ていましたけれども、かたいものとか、重責を負わなければいけないとか、そういったイメージの方もいらっしゃるけれども、やっぱりやりたいという方に対して、ちょいボラという言葉を使って、ちょっとボランティアしてみませんかということで誘って、それでコーディネートをしていこうというような試みなんかは実際にやられているのを、つい一昨日聞いてきたところで。たまたま私も恥ずかしながら、同じような取り組みを、今、横浜市のほうでも少しやられているということをおととい、宮崎でそれを聞いてきたところで、大変申しわけないのですが、そういったところの話をちょうど伺っています、きょう、まさに皆さんが区民の皆さんと10月31日に意見交換されてきたことなんかは、そういったところの意見が多分たくさんあるの

かと思えます。皆さん足を運ばれて、いろいろな方と膝を突き合わせて意見交換していただいているところを課題解決に結びつけていけるのかなということで、今回の活動は非常に期待しておりますので、よろしくお願ひします。本日は遅参いたしましたして申しわけございません。

金光委員長 ありがとうございます。

石川参与 皆さん、お疲れさまでございます。神奈川県議会議員の石川でございます。きょうは2回目の参加をさせていただきましたけれども、2つの部会のお話をお伺ひさせていただきました。私も13年前に山梨から川崎の麻生区に引っ越しをしてまいりまして、そのときに思ったのは、やはり緑が多いところだなということです。今、私ははるひ野というところに住んでいるのですけれども、昔は栗平というところに住んでおりました。一番最初に山梨から引っ越してきたときは、栗平に馬がいるのですよ。びっくりしました。川崎に馬がいるのだよというようなことを非常に感じていまして、家族もいた中で、住みやすい場所だなと、子育てをしやすい場所だというふうに思いまして、そのときは賃貸アパートを借りていたのですけれども、今、はるひ野に、35年ローンで、79歳までローンを組みまして、マンションを購入させていただきました。そのマンションを買うときにも伺ったのですけれども、麻生区から麻生区に引っ越す方が多いそうなのです。アパートを賃貸で借りていたりしていた方が家を買う、マンションを買う。やっぱり麻生区がそれだけいいということは、昔から住んでいた方は、はるひ野は昔、山があつて、それを切り崩したところなのだと、それで自然も大分破壊されているのだよということを言われるのです。でも、そう言われても、新しく入ってきた人間は、私も47になりますけれども、川崎というと、工場地帯があつて、昔は公害のまちみたいなことも言われていましたけれども、全然違うのです。そういう意味では、麻生区は、緑が多いということと、治安がいいということは、ブランド力になるのではないかというふうには感じています。ただ、子育てに関しては、行政的に言うと、待機児童の問題とか、小児医療費の問題とか、いろいろありますけれども、東京都に通勤されている方が非常に多い、神奈川都民と言われるぐらい、東京に通われている方がいらっしゃる中で、やはり子育ての部分の東京都との格差、そういう部分はやはりこれから行政として福田市長も多田区長も頑張っていると思いますけれども、そういう視点もあるのかと、若者世代のこれから住みやすいまちづくりというところではあると思ひます。

あと、ボランティアの件なのですけれども、うちの父も引退して十何年たつのですが、男が今まで会社に行つていて、引退して、地元でといったときに、なかなかきつかけといいますか、それが難しい。たまたまうちのおやじは囲碁をやっていましたものですから、囲碁クラブ、それは遊びなのですけれども、そういうところから地域に溶け込んでいったという部分もありますので、ここが1つの課題なのかと思ひまし

た。拙いあれで申しわけないですけれども、また今後ともご指導をよろしく願います。ありがとうございました。

金光委員長 どうもありがとうございました。

これからも参与の皆様方に我々麻生区区民会議のほうへ貴重なご意見を、あるいはご助言をいただければと思いますので、よろしく願い申し上げます。本当にお忙しいところありがとうございました。

それでは、本日の審議を踏まえて、多田区長よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

区長 委員の皆さん、お疲れさまでございました。きょうの第6回、前回は8月でございまして、第5回の会議以降、それぞれの部会での審議、そして、お話がありましたように、現地に出向いてのヒアリングですとか、あるいは区民との対話を通じて、大変いい方向にといいますか、ますます充実していると感じました。それで、前回から今回までの間に子育てフェスタを開催いたしまして、多くの皆さんにご協力をいただきました。この子育てフェスタ、2回目になりますが、ことは昨年にもまして盛況で、また続けてやってほしいというような区民の多くの皆さんからご要望をいただいております。ありがとうございました。

それで、子育てフェスタでのアンケートが、若い世代が住みやすいまちづくり部会のほうでも出ておりました。緑が多い、治安がいい、これ、まさしく麻生区の魅力なのですね。何回も言いますが、市内の緑山地の43%は麻生区にある。あるいは治安について言いますと、交通事故が全国の政令指定都市の中でも、人口10万人当たりの事故件数などが断トツに低い川崎市でございしますが、その中でも麻生区が低い。あるいは犯罪の認知件数も低いということなのですが、この2つとも、石井さんもいっちゃいますけれども、里山・里地を保全、利活用していこうというボランティアの方が、先ほどおっしゃいました、緑色ではなくて、利活用して、子供の遊び場ですとか、こういう営みが本当に多くいただいているのですね。ただの緑ではなくて、手の入った、親しめる里山づくりに協力していただいていることが緑の魅力ということにもつながると思いますし、また、交通事故につきましては、交通安全関係の団体がさまざまございます。学校関係では母の会もございまして、そういう方たちは本当にパトロールですとか、日常ですとか、そういうことをやっていただいている結果が、交通事故が一番低いという、大変立派な記録が維持できているというふうに感謝しておりますが、これらも大きな意味で大変なボランティアなのですね。そういうことに感謝しているところでございます。

芸術・文化は理解が少ないというアンケート結果ですが、これも他区と比べるとかなり高いと我々は自負しています。若い世代が20%ということで、先ほど子育てフェスタ、昨年もそうでしたが、今回も音大の皆さんが来ますと、ただの音楽ではないの

ですね、ステージドレスか何かを着ますので、またすばらしい雰囲気の中で、本当に親子で楽しめる場所なのです。やはり小さいお子さんを連れていきますと、この辺の周辺の会場はなかなか入場規制といたしますか、入りづらいと思うのですね。そんなことも含めまして、我々、親子で参加できるコンサートですとか、音大さんに大分協力をいただきまして、続けておりますが、ことしはテアトロ・ジューリオで多くの皆さんをご招待して、これも本当に乳飲み子といたしますか、乳母車で来ても結構ですよというコンサートを来年行いまして、これから募集しますので、小さいころからそういうところに親しめる環境を親子の皆さんに提供していくことも子育て支援の1つかな、あるいは芸術・文化の魅力を図っていただく1つかなということで進めております。こんなことも通じて、芸術・文化の浸透というものも、この世代に図ってもらいたいというふうに思っております。

それから、シェアハウスの件ですけれども、今、若者が住めるような環境ということで、シェアハウス、優良な住宅の利活用でございますが、一方では、高齢化の課題の中でも、高齢化した地域でシェアハウスをすることによって、若者がそこに入り込んで、地域活動なりをしてもらおうということで、実は高齢化の切り口からもシェアハウスのほうに進めておりました。特に日本映画大学のほうに我々が、映画大学の特性がありましたけれども、白山グリーンタウンでどうでしょうかというお話をご提案申し上げまして、理事長さんが、それはいいなということになった。それを進めるために大学の中に担当をつけるということで、今、区といろいろ話し合っていてやっています。区の支援としては、街区のそれぞれの自治会にいろいろなご説明をしたり、それから、空き家の状況を調査させていただいたり、それから、日本映画大学のほうも、ただシェアハウスを学生がシェアするだけではなくて、そこに学校が入ります。学校が借りて、学校が責任を持ってやるという形を追求していただいていますので、大分ハードルが下がったなど。今、不動産の管理会社ですとか、そういうことも含めて、調整をしていくということで、こんなことの支援ですとか、それを通じて、URと、それから、昭和音楽大学の、URのサンラフレ、このモデルルームに防音設備をつかった部屋をつくりまして、ぜひ音大の皆さん、入ってくれないかなと。ホールがありますので、音大の皆さんにコンサートをやってもらって、関心を高めようとか、それも実際に進んでいる、こんなコーディネートも今進めているところでございます。特に空き家の率で言うと、この間ちょっとうちのほうで調べたら、年々ふえているだろうと思ったら、麻生区は5年刻みぐらいでふえていないのですね。それが意外だったのですが。ただ、65歳以上の高齢単身者、あるいはご夫婦だけで、持ち家率というのが他区と比べるとすごい高いのですね。そうすると、今後の住宅ストックの活用というのも、いろいろな面で考えていかなければいけないということで、空き家対策といっても高齢化に向けたり、若者が住んだり、あるいは本当の空き家対策というので

すか、安全ですとか、放置、こんなこともいろいろありますので、関係局とも議論して行っています。シェアハウス、民民でやっている分にはなかなか実態はわからないのですが、少し意図的に、こういう取り組みでどうでしょうかということをお学校ですとか、自治会の皆さんにご提案申し上げながら、意図的に進めていきたいと、こんなことを考えているわけでございます。

それから、市民活動・地域活動の活性化部会の中でボランティアの話が出ましたけれども、地域の人材ですとか、その活用というのが、我々も一生懸命全力で取り組んでいるわけでございますけれども、うちのほうの区の中でいろいろな計画をつくるのに、若手職員のワーキンググループをつくって、自由なことで、こんなこと、こんなこと、研究してくださいということで、やってもらっているのですね。地域人材の育成ですとか、地域活動についての研究テーマで、1つはボランティアセンターの活用ですとか、そのこともいろいろ聞き取り調査をしている。それで、麻生区の特徴的なところは、シルバー人材センターに登録する人の動機の1番は、生きがいとかやりがいなのですね。そのためにやる。幾つか項目があって、そこで仕事で報酬をいただきたいから登録しましたという方の率が、それはゼロではない、いらっしゃるのですけれども、南部と比べるとそれは逆転している。どちらかという、シルバー人材センターに登録するときの際の、繰り返しますけれども、一番動機というのがやりがい、生きがい、これがきっかけです。ということでもありますので、そういう意味で、先ほどミスマッチの話がございましたので、こういうことと、こういう需要をうまくマッチングするということを通じて、生きがいとか、やりがい、これを生かせるような人材の供給と提供も進めていけると大変すばらしいと思います。ボランティアが健康寿命を延ばすと、大変すばらしいキャッチフレーズなので、ぜひこれはともに進めてまいりたいと思いますし、区としても参考にしてまいりたいと思います。

長くなりましたが、長時間ありがとうございました。

金光委員長 どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうから、次回の予定等についてよろしく願いいたします。

事務局 資料7に今後の予定等スケジュールを記載させていただいておりますけれども、次回、第7回の全体会議は、来年2月12日、金曜日、午後3時から開催させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

金光委員長 どうもありがとうございました。

3 閉会

金光委員長 以上をもちまして、第6回全体会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

午後4時39分閉会